

中山間地域住民の道路安全性の認識に関する調査研究

東京大学 学生会員 ○家辺 麻里子

東京大学 正会員 長井 宏平

東京大学 正会員 廣井 悠

1. はじめに

高度成長期に大量に建設されたわが国の道路インフラは、その多くが今後 10 年間で建設 50 年を迎える。これらは安全性や利便性確保の観点から適切な維持管理が求められるものの、財政・技術力などの面で問題を抱えている地域も多い¹⁾。一方、特に地方の中山間地域においては限界集落と呼ばれる深刻な人口減少や高齢化の問題を抱えた集落が広く知られている。例えば本研究で調査対象地とした高知県仁淀川町はその 1 つであるが、ここでは年々人口が減少し、高齢化率は 46% にものぼるという²⁾。このような地域は集落が離散的に点在しているため、理想的なインフラの維持管理を実現することは更に難しく、実態に即したその優先度を決定することは必須と考えられる。ところで、インフラにおける維持管理の優先度を決定する重要な要因の一つに住民の意見や認識がある。しかし、住民が道路を使用する際に感じている認識を量的に把握する調査事例は現在のところ豊富ではない。本研究は以上の背景より、高知県仁淀川町を対象として全世帯へ質問紙調査を行い、既存の道路の安全性や使いやすさに対する中山間地域住民の認識を分析したものである。

2. 調査概要

本研究では、仁淀川町全世帯 (3253 世帯) を対象とした郵送配布及び郵送回収からなる質問紙調査を行っている。質問紙は 1 世帯につき 2 通(世帯主回答用と世帯主以外回答用)を同封し郵送している。平成 21 年 11 月 30 日から 22 年 2 月 26 日までの消印のあった 1026 通を分析対象としている。

仁淀川町内の道路は図 1 に示すように主要な国道の他は非常に入りくんでいる。よって道路の規模により維持管理や整備状況が異なり、住民の感じる安全性や使いやすさも異なることが予想されるため、

町内の道路を「住まい近辺の道路 (自動車で 2,3 分の範囲)」「町内で主要道以外の道路」「主要道 (道幅 13m 以上の国道)」の 3 種類に分類し、道路ごとに安全性、使いやすさについて、当てはまる問題点全てを選択する形式で質問をした。またこれに加え、外出の移動手段についても質問している。

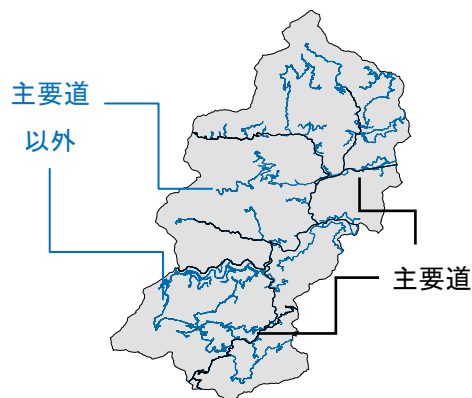


図 1 仁淀川町の道路

住民が認識する道路の安全性・使いやすさの要因を把握するため、既存の道路の問題点を以下の基準で分類し、項目を作成した。

- ・安全性に関する問題点 (道路の維持管理が不十分であるための問題点)

項目 (複数回答可)

「土砂崩れの危険性がある」、「舗装が悪い」、「傷みが目立つ」、「雑草の処理がされていない」、「揺れる」、「該当する項目がない」、「その他」

- ・使いやすさに関する問題点 (道路の整備状況が適切でないための問題点)

項目 (複数回答可)

「カーブが多い」、「狭い」、「歩道がない・歩道が狭い」、「坂が急」、「迂回路がない」、「暗い」、「最寄りの公道に出るのが大変 (住まいの近辺のみ)」、「該当する項目がない」、「その他」

キーワード 中山間地域, 道路維持管理, 安全性, 使いやすさ

連絡先 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学コンクリート研究室 TEL 03-5841-6146

3. 基礎分析

道路の種類ごとに外出時の移動手段を尋ねた結果が図2である。全ての種類の道路において、「自分で運転する車」を選択した回答者は圧倒的に多く、「家族等が運転する車」を選択した回答者も多数いる。ちなみに、回答者の約4分の3は運転免許を保有しており、住まい近辺の外出にも徒歩や自転車ではなく自家用車を利用することが多い車依存の生活様式であることが読み取れる。

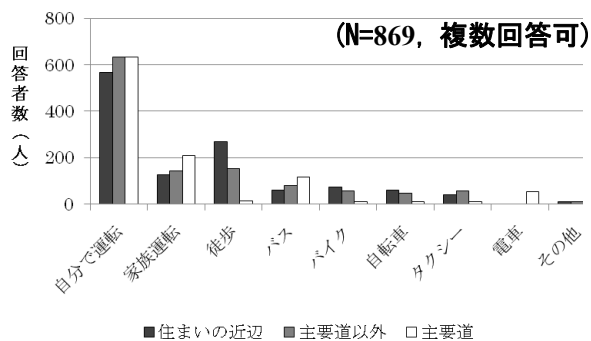


図2 回答者の移動手段

図3に道路の安全性に関する調査結果、図4に使いやすさに関する調査結果を図示する。グラフの縦軸はともに3種類の道路全てに回答した回答者全員（安全性773名、使いやすさ780名）に対する各項目を選択した回答者の割合を示している。

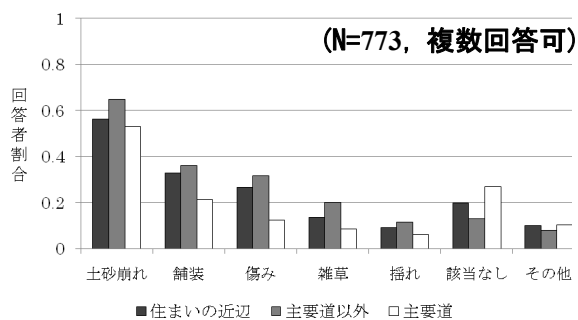


図3 道路の安全性に関する問題点

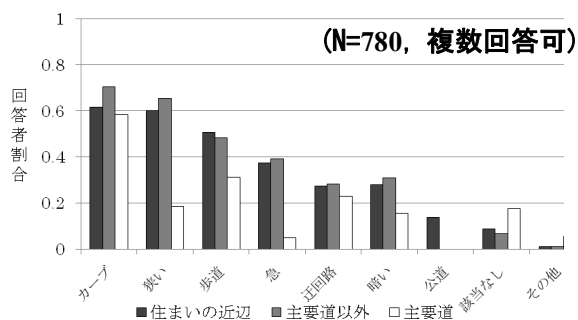


図4 道路の使いやすさに関する問題点

この調査結果から、ほとんどの項目において「主要道以外」の道路に対して問題を認識している回答者が多く、また「主要道以外」の道路に対し「該当する項目がない」と答えた回答者は逆に少ないことが読み取れる。主要道は町外への移動に必ず使用する片側1車線の国道であるため維持管理が比較的行き届いていると考えられ、この結果も納得できる。しかし、道路維持管理が行き届いていないと予想される集落内の細かく入り組んだ道路よりも、集落を出て町内を移動する際に使用する主要道以外の道路に危険性や使いにくさを感じる回答者が多いという結果は興味深い。特に安全性について、全ての項目で「主要道以外」の回答者割合が最も高くなっているという点は、住民の求める道路の整備水準と実態との乖離を示唆するものと推察され、より細かい要望の把握が期待される。

4. 考察

多数の回答者にとって「町内で主要道以外の道路」の安全性・使いやすさともに最も低く認識されている。このことは、自宅付近の道路は最も使い慣れているということや、町内のほとんどの地域において、買い物・通院などのためには町内外の別地域への移動が必要であるため重要度を高く認識していることも予想される。また、住民の感じる安全度と、実際の安全度には相違があるので、住民の認識についての質的な調査も今後あわせて必要である。

5. まとめ

高知県仁淀川町における質問紙調査より、中山間地域の住民は自宅付近の道路より、自宅付近から主要道への山間道に危険性と使いづらさを感じていることが明らかとなった。これは道路維持管理の優先順位を模索する上で考慮すべき一要因の決定に資するデータである。

参考文献

- 1) 道路橋予防保全に向けた有識者会議
<http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/maintenance/index.html>
- 2) 平成17年 国勢調査
- 3) 道路投資の評価に関する指針検討委員会、道路投資の評価に関する指針(案)第2編総合評価、日本総合研究所,1998